

に出かけたくなる街づくりなど健康を守る医療機関の充実、地域内福祉サービスの提供を進めこの町に暮らせてよかったという切れるまちづくりで応えたい。

から期間営業している。14年、15年の「プール継続利用」についての陳情は不採択であるが、18年の「新規着工プール」は採択されている。

質問 クリオンのプールの工事施工についてだが、このプールは市で唯一つの温泉プールである。議会は陳情者から新設や改修の陳情を受け、当局の考えを基にして3度採択している。しかしその後の経過について説明がない。

検討委員会の報告を受け、平成20年には、改修して利用できないかさらに政策調整会議で検討している。その結果21年6月に、仙北市のトップ会議でプールだけでなく、クリオン全体のリニューアルの方向付けを検討している。その経過を踏まえ、今後の対応については、平成22年度の早い時期に実現の方向性を明らかにする考えである

答弁 クリオンのプールは施設の老朽化と利用者の減少により、平成14年

長はどのように感じているか
「何か仕事ありませんか」という声が多い。景気悪化の中で雇用をどうするか。

仙北市の経済状況をどう見ているか

アンケート結果に驚いた



八柳良太郎

質問 合併して4年経つが市民の暮らしは良くなったのか。私が実施したアンケートによると、約60パーセントの市民が悪くなったと回答している。このことについて市

会社負担する法人税は、自主財源の約45パーセントを占める固定資産税の約半分である。財源確保の観点から、あるいは雇用確保の面でも法人



弘道書院の復元計画が示された伝承館前広場

に対する支援をすべきである。長引く不況の中、資金繰りに苦しむ中小零細企業に対して、商工会の経営指導も入れながら、国の緊急経済対策策資金を利用しやすくするよう金融機関に対し要望していただきたい。

この土地利用の全体計画について伺いたい。また、この土地利用の全体計画について伺いたい。また、この土地利用の全体計画について伺いたい。

た現在何か使用目的があるのかも併せてうかがいたい。

養成して取組みたい。またイベント等を開催して、男女出会いのきっかけをつくりたい。

消防団の報酬は適正か

出動費については検討したい



浅利則夫

質問 旧角館町国保会計における過小課税問題について不明な点が多々ある。詳細な実態調査を実施

国への返還金2,319万3,140円はどうか。市長の御所見と今後の対応について伺いた



認定こども園に移行できるか注目される
ここにこ保育園

い。
答弁 あるべき書類がなく、その他の関係書類も全て調査したが、調定額が減額された金額と国保税更正何いとの相違している部分の解明には未だ至っていない。会計検査院もまだ継続して調査が行われており、結果報告までにはもう少ししばらく時間を戴きたい。不安やご心配をかけ、それに対する十分な説明や報告がまだできないことにお詫びを申し上げたい。

て3月末までに納めていただくことになるとの連絡を受けていて、予算措置をお願いしたところである。会計実地検査から1年以上も経過していることから、事実解明に全力を挙げ、自体の早期解決に努めて参りたい。
質問 仙北市消防団員の報酬について伺う。国は消防団員一人当たり年間3万6,500円の報酬費を交付していると聞いている。適正な報酬費に改正すべきと考えるが、その見通しの是非について市長の見解を伺う。

し、非常備消防に掛かる人員・設備等を定めた上で、仙北市の人口・人口密度などの地域差を補正し積算されてきている。標準の36,500円に対し、各種補正係数等により22,326円という算入額に留まっているのが現状である。県南3市町を比較すると報酬費では平均より若干高いが、出勤で若干下回っており、出勤費については今後検討して参りたいと考えている。

質問 西木町のここにこ保育園を認定こども園に移行するために、どのような検討をしたか。その内容と今後、認定こども園とする取り組みについて市長の御所見を伺いたい。
答弁 「ここにこ保育園」は保護者の要望が高いことや、県の指導を受けて実施した「幼保一体型指導計画の作成」の研究事業の成果などから「認定こども園」への移行しやすい環境にあると認識している。国も幼保一元化の制度改正を進める方針を決めたいという情報も

あるので、今後の動向なども注視しながら進めて参りたいと考えている。

質問 「明日の高校を考える市民会議」について伺う。委嘱する委員12名の内訳はどうか。
答弁 学識経験者1名、学校長2名、同窓会代表2名、PTA代表2名、連合PTA1名、校長会代表2名、教育委員長と教育長である。
質問 公募する6人の選考基準は何か。
答弁 教育委員長が座長で、総務部長、教育次長、



6月まで結論を出すことになった
県立高校統合問題

企画政策課長、重点プロジェクト推進室長5人で構成する。選考基準は職歴や活動経歴、応募の動機等を選定基準とする。
質問 公募と委嘱する委員の数がアンバランスだ。公募が少なすぎると思うがどうか。
答弁 公募がすくなくないと言いが、両高校に関連する委員が6人、教育関係者5人、公募6人とバランスはとれている。
質問 結論が6月では拙速すぎないか。また4月異動期で機能しないと思うがどうか。

答弁 平成22年度で第5次計画は終了する。6月から第6次計画の素案作りが始まり、9月県議会に検討結果が報告される予定だ。スケジュールからいって6月である。また異動による引継ぎ等を配慮し、詳細な説明をして遺憾ないよう対処する。
質問 第6次整備計画(案)に仙北市の意見を反映させるといいますが、教育民生委員会は理解しているか。
答弁 委員会に経過報告はしている。また情報提供もしている。市民会議の意見集約を図って、委員会と協議する。
質問 市民会議の結論は高校統合をどうするかだ。門脇市長自身は、学

校格差よりも学校建築が優先か。
答弁 私は長くこの問題に関わってきた。市長という立場で言えば、「議論が長引くことは、子供達のためにも地域のためにも良くない」。
議会特別委員会の結論のように、仙北市、仙北市教育委員会、県教育委

市長自身高校統合をどう思う？
長期化は避けたい



狐崎捷琅